

蒲郡南地区 かわら版 第5号

蒲郡南地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

将来の蒲郡南地区と公共施設の姿について、皆さまとともに考えています。

蒲郡市では、今後の人口減少・少子高齢化が進む社会情勢を見据え、公共施設の維持更新費用で将来に大きな負担を残さないため、「身の丈にあった」施設保有量に適正化していく取り組みを進めています。

そこで今年度、蒲郡南地区（蒲郡中学校区）にある公共施設（小学校・中学校・保育園・児童館・公民館）の将来のあり方について、皆さまに考えていただく機会として、「蒲郡南地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催してきました。2月10日(日)蒲郡中学校にて最終回となる第5回ワークショップを開催しましたので、その内容を中心にこれまでいただいたご意見等をお知らせします。

また、ワークショップで話し合われてきた内容等についてのご意見を引き続き募集しています。「ご意見募集」をご覧ください。

検討の進め方

蒲郡市は、このワークショップをはじめ、広く地区の皆様からいただいたご意見を反映させた、蒲郡南地区の公共施設の配置や活用方法を示す「地区個別計画」を策定します。下図のように段階的に検討を進めてきました。第5回ワークショップでは、施設の再配置プラン案を比較しながらどの案が地区の将来の姿としてふさわしいかについて話し合い、施設の再配置を実施する際に運営面等で配慮しなければならない事項（付帯事項）についても意見を出し合いました。

進め方の
確認

地区の課題の
抽出

施設再配置
プランの検討

施設再配置
プランの比較

蒲郡南地区
個別計画の策定

第5回ワークショップ 2月10日(日)開催

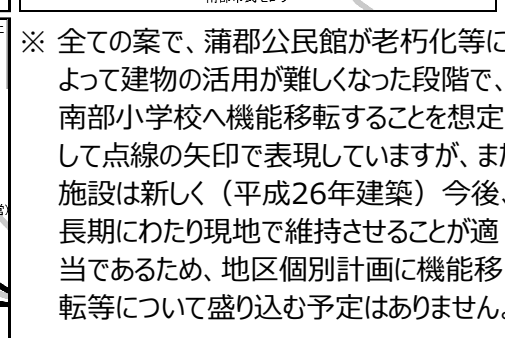
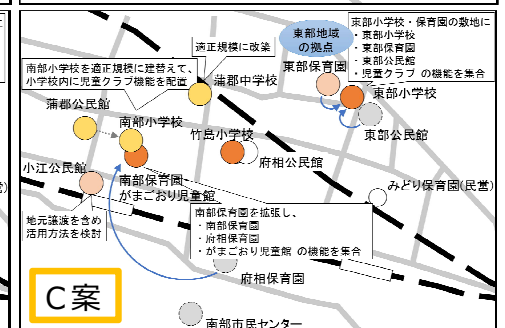
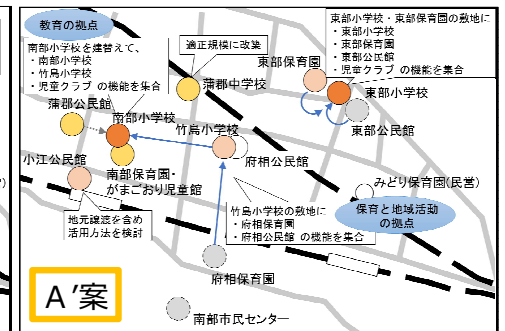
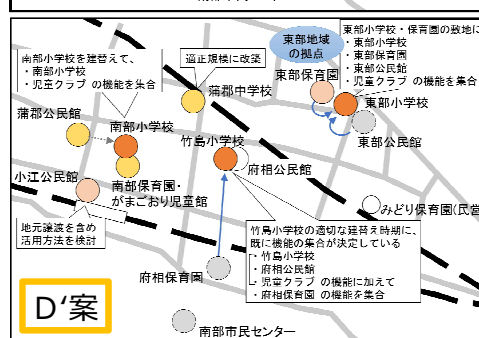
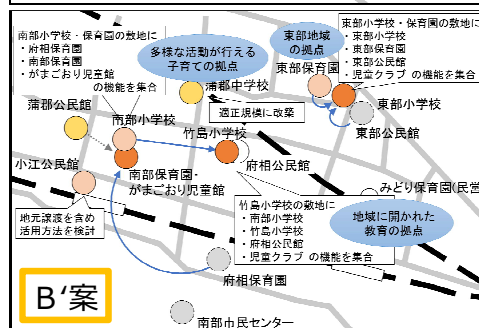
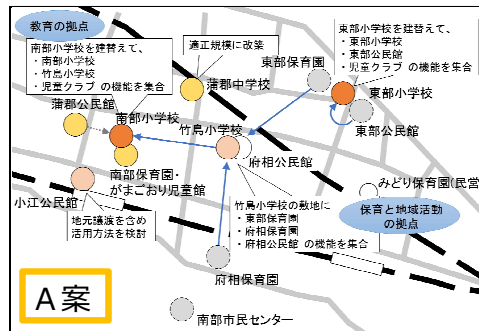
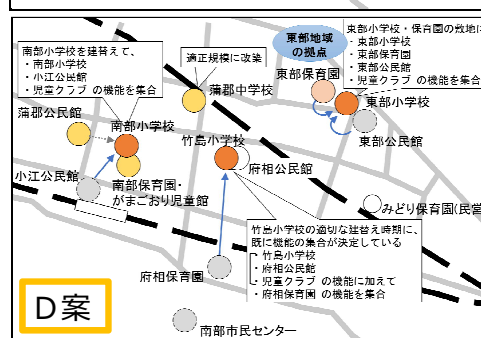
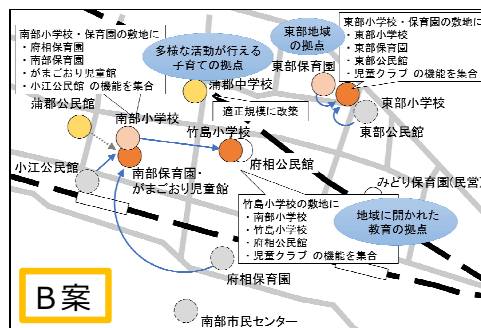
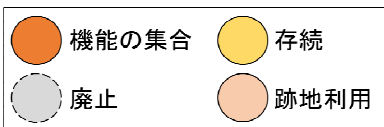
これまでのワークショップの検討を踏まえ、将来の蒲郡南地区の公共施設の配置としてふさわしい案について話し合いました。



地区内の小中学校・保育園・児童館・公民館の配置や活用方法を定めます。

7つの再配置プラン案の比較検討を進めました。

ワークショップでは、地区内の課題や将来の姿について話し合い、それらを元に事務局が作成した7つの再配置プラン案を検討の対象としてきました。



※ 全ての案で、蒲郡公民館が老朽化等によって建物の活用が難しくなった段階で、南部小学校へ機能移転することを想定して点線の矢印で表現していますが、まだ施設は新しく（平成26年建築）今後、長期にわたり現地で維持させることが適当であるため、地区個別計画に機能移転等について盛り込む予定はありません。

ワークショップの中でいただいた皆さまの想い

ワークショップでは、地区の課題やその解決方法、蒲郡南地区の将来について話し合いを行ってきました。第5回ワークショップでは、これまでの検討を踏まえ、将来の公共施設の配置としてふさわしい案を検討していただきました。全5回のワークショップで地区の皆さまからいただいた、蒲郡南地区についての様々なご意見を以下にまとめました。

子育て

充実した保育サービスの提供

- ・共働き家庭が当たり前になっているため、保育のサービスが充実すると良い。

子どもの遊び場

- ・子どもを遊ばせることのできる児童館は子育て世代にとって重要な施設である。
- ・子育てしやすい、暮らしやすいまちになることで、人が移り住んでくれると良い。

送迎の利便性

- ・同じ学区内の小学校・保育園は同一敷地のほうが、送迎などの面で保護者は便利だ。
- ・小学校と保育園が隣り合っていると、一度に送迎ができ、保護者はかなり楽になる。

保育園の駐車場確保

- ・保育園は車での送迎が多く、立地よりもサービス・設備を重視して選択しているようだ。複数の保育園を設置するよりは、大きな敷地に集めた方が車で利用しやすく効率的だ。
- ・保育園の駐車場が不足しており、送り迎えの際に不便だ。

子どもたちの利便性

- ・小学校と児童クラブは同じ敷地にあるほうが子どもの移動の負担もないので良い。
- ・小学校は徒歩で通える近い距離にあるほうが良い。

学校

学校の適正規模化

- ・公共施設の中で学校の占める割合は高く、今後生徒数の減少も予測されるので、学校を適正規模にしていくことは教育的視点・公共施設の維持管理にかかるコストの視点両方から必要だ。

交流

にぎわい・交流作り

- ・一つの場所でいろいろなことができる多機能施設があると良い。様々な目的で多様な人が集まることで賑わいや交流が生まれる。
- ・マルシェなどの賑わい作りを公共施設で行い、地域住民が集う場を作っていけると良い。

子どもとのつながり

- ・部活動などの教育現場に、もっと市民に関わってもらうことが、子どもたちの教育に良い影響を及ぼすと思う。

- ・今後ますます身近な場所に交流拠点となるコミュニティ施設が求められる。

- ・世代間交流とは別に、世代毎に交流できる場所があると地域活動は盛んになる。

世代間交流

- ・子育て施設と高齢者の利用する施設を集めれば、新たな交流が生まれ相乗効果があるのではないかな。
- ・公民館で高齢者と小中学生の交流をすれば利用促進になる。

中高生の居場所

- ・中高生が自由に勉強やおしゃべりができる場が公共施設にあるかも重要だ。

居場所づくり

高齢者の居場所

- ・アクセスが良い場所に高齢者が集う場所を作り、高齢者と地域との関わりを持続させ、孤立化を防ぎたい。

地域の拠点

- ・小江地域には集会所がなく公民館がその役割を担っている。お祭りで利用しているため、現在の場所から移転させることは難しいが、必ずしも公民館である必要はない。

地域の まとめ

東部地域のまとめ

- ・東部小学校区と他小学校区は少し離れているため別のエリアだという認識だ。東部地域として結束している。

通学の安全

- ・南部小学校周辺は一方通行が多く道幅も狭い。利用者が増え、車の通行も増加するのであれば、通学路を含め安全への配慮が必要だ。

防災・防犯

学校のセキュリティ

- ・学校と他施設の機能を集めるのであれば、セキュリティ・安全への配慮が必要だ。

府相保育園の移転

- ・府相保育園は、津波浸水想定域内に位置しており、安全確保の点で心配だ。

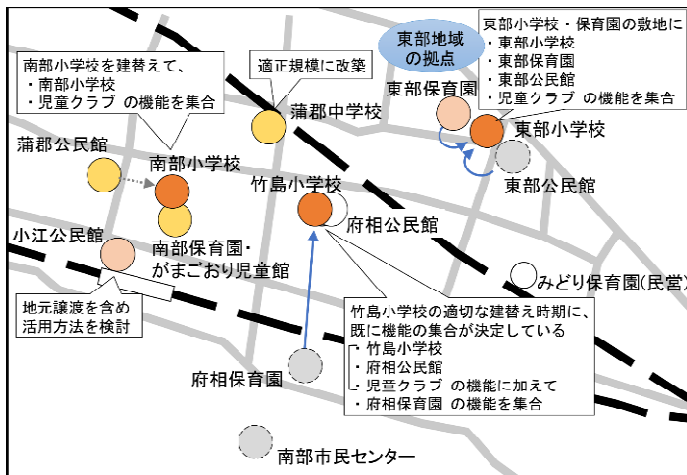
災害時の連携

- ・災害時には地域と連携をとり、子どもたちを避難させることが必要だ。

ワークショップで期待の集まったプラン

蒲郡南地区のワークショップでは、子育て環境の充実から防災・防犯まで多岐にわたり幅広く地区の将来について議論されました。特に学校規模や配置の議論については多くの関心が集まり、小学校の配置が異なる2つのプランにご意見が集まりました。今の小学校配置を維持するD'案に対する意見は多く、選択した理由として学校規模や配置については、市の中心であるという地区の特性を踏まえて、今すぐ判断するのではなく、人口減少が現実的になったときの再検討を求めると意見が多く聞かれました。

① D'案「D案:徒歩でのアクセスを維持するプラン」の修正プラン



〈概要〉

- 蒲郡南部小学校の敷地に、蒲郡南部小学校、児童クラブの機能を集めます。蒲郡公民館については、適切な建替え時期に機能を集合します。
- 竹島小学校の適切な建替えの時期に、竹島小学校、府相公民館の機能に加え府相保育園の機能を集合させます。
- 蒲郡東部小学校・東部保育園の敷地に、蒲郡東部小学校と東部保育園、東部公民館の機能を集め、東部地域の拠点をつくります。
- 小江公民館は公民館機能を廃止し、建物は、地元自治会への譲渡を含め活用方法を検討します。

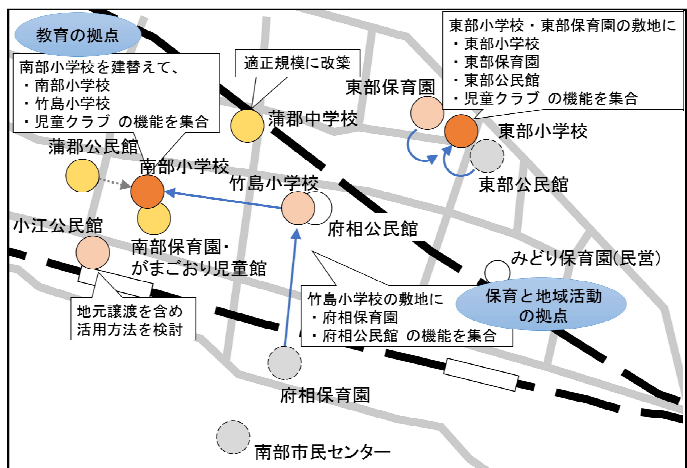
〈いただいたご意見〉

- 将来負担の縮減だけを考えて、住みよいまちになるのだろうか。市の中心部なので他地区より人口減少は遅い。統合するにしてももっと先に検討すべきではないか。
- 蒲郡南地区は市の中心部であり、人口減少は考えられないし、そのように対策を講じるべき地区だと思うので、現在の小学校はそのまま維持する必要があると思う。
- 南部小学校周辺には、保育園・児童館など子育て施設が充実しており、竹島小学校も府相公民館との機能集合に向け取り組んでいる。それぞれの小学校を中心にモデルケースとして取り組みを進めている最中だ。
- 南部小学校と小江地域は、図書館開放などを通じて連携が深まっており、高齢者と児童の交流が盛んだ。世代間交流や高齢者の活躍の場が作れるよう、なるべく身近な場所に小学校を残したい。

- 府相保育園の園児の多くが、竹島小学校に進学するため、現在のように府相保育園は竹島小学校区内に残し、竹島小学校とひとつになると地域のつながりとしても違和感がない。
- 保護者にとっては、小学校・児童クラブ・保育園がまとまっていたほうが安心感があり、送迎も効率的だ。

- 各地域と小学校のつながりを大切にしたい。
- 子育て世代の利便性を向上させたい。
- 蒲郡南地区は市の中心に位置し、今後も人口の減り幅は緩やかなはずなので学校の統合を行なうのは時期尚早だ。

② A'案「A案:学校規模を維持し教育の拠点と子育ての拠点をつくるプラン」の修正プラン



〈概要〉

- 蒲郡南部小学校の敷地に、蒲郡南部小学校、竹島小学校、児童クラブの機能を集め、教育の拠点をつくります。
- 現竹島小学校の敷地に、府相公民館、府相保育園の機能を集め、保育と地域活動の拠点をつくります。

〈いただいたご意見〉

- 蒲郡南地区の人口減少の速度は遅いかもしれないが、市全体で見ると20~30年後は深刻な状況になるのだろう。自分たちの地区さえよければいいのではなく、市全体の課題として検討すべきだ。
- 蒲郡南地区は人口が増えている場所があるようだが、一方で人口が減り元気がないエリアもある。いざというときに備えて小学校の統合も視野に入れておいた方がいい。
- 今後きめ細かい教育が求められると思うので、スケールメリットを発揮し質の高い教育を提供するために統合は必要だ。

- 教育環境適正化、公共施設の維持管理にかかるコスト削減の観点から、人口減少が現実的になった際には小学校の統合を検討する必要がある。

再配置を考えるうえで配慮すべきこと

第5回ワークショップでは、再配置案の絞り込みを行うとともに公共施設の再配置を進める際に配慮してほしいことや、注意すべき事項についてご意見をいただきました。過去にいただいたご意見も含め、主なものを以下に掲載しています。

〈個別計画策定の際に配慮してほしいこと〉

- ・小学校の統廃合については、ワークショップの意見だけでなく、市としての学校の適正配置や統合についての考え方を検討し、市民に示してほしい。
- ・小学校の統合については、今の建物の建替え時期が近づいた時や児童数が減少した時にもう一度検討するべきである。
- ・蒲郡中学校と中部中学校、蒲郡南部小学校と竹島小学校・中央小学校は元々一つだった経緯があり、学校間の距離も比較的近い場合があるので、統合を考える際は、蒲郡南地区だけでなく隣接する中部中学校区も含めて考えてほしい。

〈施設整備の際に配慮してほしいこと〉

各機能の確保

- ・機能の集合する施設を建設する際は、それぞれの機能を十分確保できることを確認した上で進めてほしい。また、学校を建替える際の仮校舎、運動場についても教育環境に影響がないようにしてほしい。
- ・施設を集合することで各施設の敷地面積が狭くなり、運営上の問題が生じないように配慮してほしい。



関係者との対話をしっかりと行なってほしい

- ・小江公民館の今後のあり方については、地元としっかりと話し合った上で決めてほしい。
- ・小学校の統合をする場合は、通学している児童に転校などの負担がかからないように、学校や保護者、児童の声を聞きながら進めてほしい。

防災・防犯等安全面への配慮

- ・施設を集合する場合、災害時に備えて浸水の危険性や地盤などの安全面への配慮をしてほしい。
- ・施設が集まることで多世代交流が進むと良いが、不特定多数の方々が集まるのが不安なので、地域性も考慮しながら防犯対策を検討してほしい。
- ・府相保育園は津波浸水想定域に該当しているので、早急に安全な場所へ移転してほしい。
- ・南部小学校周辺は一方通行が多く、道幅も狭い。施設が集まることで利用者が増えるようであれば、通学路の確保も含め安全面への配慮が必要である。

その他

- ・調理室を1階に移して公民館との共用を図る竹島小学校のように、施設を共有し効率的に運用できるように考えていく必要がある。
- ・「地域の盛り上がり」「高齢者の賑わい」の視点で、公民館がさらに活気づくよう力を入れていくという考え方は賛成だが、運営方法の工夫だけではなく施設を運営する職員へのフォローや施設の充実についても検討してほしい。

皆さまからいただいたご期待をもとに、市は「地区個別計画」を策定します。

いただいたご意見を参考に、市は今後さらに検討を進め、将来の蒲郡南地区の公共施設の配置や活用方法を定める「地区個別計画」を策定します。

たくさんのご意見、まことにありがとうございました。

ワークショップに参加された方をはじめ、オープンハウス（パネル展示型説明会）でのアンケートにご協力くださった方など、これまで多くの方から貴重なご意見をいただきました。ご協力いただき、まことにありがとうございました。

〈ワークショップに参加してくださった方の感想〉

- ・自由な意見が言えること、とても参考になる意見等学べてよかったです。今後どのように変わっていくのかとても楽しみにしています。
- ・自分の知らない事など、年代が違っておかげでディスカッションは楽しくできたと思う。現在ではなく未来の話になるので蒲郡についてちゃんと考えられるいい機会だったと思う。
- ・様々な視点から公共施設を中心にまちづくりを考えるという貴重な経験ができたと思います。参加してよかったです。
- ・普段の生活の中で、まちづくりや公共施設の将来を考える機会がないのでとてもよい経験となりました。
- ・どのタイミングで誰が決定するのか、よく考えて実行して頂きたいと思います。
- ・この話し合いがいつ現実になるのかが問題である。
- ・回を重ねるごとに話の中身がより現実的になり、皆さんの意見が色々と解ってきたので参加できてよかったです。将来、今回のワークショップが生かされるとよいです。

ご意見募集

- ワークショップで検討されてきた内容について
- 蒲郡南地区のまちづくりや公共施設について

右の「お問い合わせ先」まで、メール・ファクス・郵便・持参により、ご意見をお届けください。

差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

お問い合わせ先

蒲郡市総務部財務課 公共施設マネジメント担当
〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号
TEL 0533-66-1158/FAX 0533-66-1183
E-mail zaimu@city.gamagori.lg.jp

ワークショップでのご意見や資料等は、市ホームページに掲載しています。

